

本年度の重点目標	①学びに向かう力の育成 ②豊かな心の育成と規範意識の更なる向上 ③防犯・防災を含めた安心・安全の確保 ④家庭や地域との協働による教育の推進 ⑤実効性のある働き方改革への取り組み			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価結果と課題
総務部	①業務の効率化と次年度への円滑な引き継ぎ ②防災体制の充実 ③体育館改修への対応	①業務の複数担当制の確立と、現行のマニュアルの見直し・改善を図る。 ②「非常災害時の避難経路」や「激甚災害時初動活動マニュアル」などの抜本的な見直し。 ③体育館改修〔体育館の使用制限〕にともなう、総務部に関連した行事等の実施方法について検討する。	①働き方改革への取り組みの一環として、個人の負担の軽減を図り、また、業務の次年度への円滑な引き継ぎに向けて、「業務の複数担当制」、「業務内容の見直し・改善による効率化」を推進する。 ②「愛知県立学校災害対策実施要領」に基づき、現状に即したものとるように見直し、更なる安心・安全の確保を図る。 ③早めに検討することによって、行事等の実施方法の変更に伴う問題点を把握し、問題の解消を図ることによって、支障なく行事等が実施できるように配慮する。	①「業務の複数担当制」を考慮した上で、年度当初の役割分担に配慮した。また、現行のマニュアルの一部をコロナウィルス感染拡大に合わせて柔軟に対応した。 ②「非常災害時の避難経路」については、年度当初に刷新し、各教室に掲示した。また、「激甚災害時初動活動マニュアル」については、抜本的に見直し、「愛知県立学校災害対策実施要領」の改正を受けて八月下旬に全職員に配布した。 ③行事等の実施方法については、体育館改修以前に「コロナウィルス感染症拡大防止の観点」に基づき、PTA総会等の実施を大きく変更した。
教務部	①生徒の確かな学力向上に向けての改善 ア 授業改善 イ 本校の実情に即した新教育課程の編成 ウ 総合的な探究の時間における学習内容の作成 ②見える化による仕事のスリム化	① ア 休校期間中の配信授業・課題に対する生徒アンケートを実施し、家庭における学習活動の充実を図り、教師の指導改善や生徒の学習改善につながるような内容を提供できる仕組みを構築する。また、実施アンケートを通して、半数以上の生徒が満足が得られるよう、指導技術の向上を図る。 イ 本校生徒の実態に合った新教育課程の作成を行う。 ウ 総合的な探究の時間の内容を確立する。 ②資料の枚数を極力減らし、教科担任・学級担任の業務がイメージしやすい資料作成に努める。	① ア 主体的・対話的で深い学びの視点を持った授業の取り組みを実施し、授業改善を図る。 イ 現教育課程の各教科の問題点を明らかにし、改善策を考え、対応策を挙げる。他校の現状などを把握し、情報を全職員と共有する。 ウ 総合的な探究の時間の内容整理を行い、3年間を通しての探究ができるような内容を検討する。 ②教科担任・学級担任ともに仕事内容の不透明な部分を無くし、仕事に対するストレス軽減につなげる。教科主任者会では、議題を事前にまとめて準備をし、新教育課程の議論に時間を費やすことができるようにする。	①休校期間中のアンケートより生徒の満足度ははかり、職員に還元することができた。ICTを用いた主体的・対話的で深い学びの実現に向けて研究をすすめ、外部の先生を招き指導をうけた。また令和4年度より導入予定である理数探究基礎についての基本方針を確認した。総合的な探究の時間を学年や生徒の実態に合わせて調整することが課題である。生徒1人1台タブレットの支給に合わせ授業の変化を促したい。 ②研究推進委員会を作ることで、教科主任会の回数を減らし、役割の明確化をはかった。また、会議の種類を精選するとともに、ICTを用いて教員の負担軽減に努めたい。
生徒指導部	①基本的な生活習慣の確立（遅刻防止） ②交通安全意識・登校マナーの向上 ③身だしなみ指導の徹底	①5分前登校の指導を継続、徹底させる。 ②交通安全指導への生徒参加、地域へのアピールしながらPTA合同指導時に保護者のたすき利用、自転車登録・点検時に交通安全指導を徹底させる。自転車通学路及び自転車の交通ルール・マナー（ながらスマホ等）の徹底を守らせる。 ③身だしなみ指導、事後指導、登校指導、交通安全指導時の校門指導を継続して実施する。年度当初に「生徒指導に関する確認事項」を全職員に配付し、指導内容・方法の確認する。	①評価基準（遅刻指数）を設定し、目標に到達できるように全教員の意識を高める。昨年度の遅刻指数は0.29であった。今年度の目標は、0.25に設定する。 ②自転車通学者の安全への意識づけができたか。また、登校マナーの向上を図ることができた地域の人へ配慮できたか。昨年度の事故件数（16件）を減少（一昨年度11件→今年度は10件以下を目標）できるように教員・生徒ともに意識を高める。 ③昨事後指導等を見直し、身だしなみを自主的自発的に整えるような指導を全教員の協力・理解のもとで行っていく。	①今年度の遅刻指数は、0.42であった。目標としていた0.25を下回り目標達成はできた。今年度は、コロナ禍において学校に適應できない生徒が多く体調不良での遅刻が多くみられた。遅刻数でみると、1年216、2年100（前年72）、3年79（前年77）のように1年生が突出して多い。 ②交通事故に関しては、現在13件となっており、目標値は若干ではあるが達成できる見込みである。今年度は交通安全指導の一斉指導ができず、各クラスHR担任からの啓発を行った。来年度は、交通安全指導を各クラスHR担任一斉指導を行い生徒の安全を守っていききたい。 ③体育館が使用できないことと新型コロナウイルスの関係で一斉指導を行っていない。HR担任を中心とした指導を行ったが全教員の協力・理解のおかげで生徒自身が自ら気づきながら生活ができたと考えている。
進路指導部	適切な職業観に基づく生徒による主体的な進路決定	①LT、総合の学習時間に行う進路指導の充実を図る。 ②インターンシップ事業、キャリア教育の充実を図る。 ③就職希望者への指導の充実を図る。 ④外部試験を有効活用する。 ⑤高大接続改革への対応を進めていく。 ⑥進路相談の充実を図る。生徒の進路選択に関する満足度を図るアンケートを第3学年の生徒に実施し、7割以上の生徒が満足感を得ることを目標とする。	①学年との連携を密にし、計画的、組織的な進路行事を考える。 ②キャリア教育の一環として2年生を対象にインターンシップを実施する。新型コロナウイルスの影響でインターンシップが行えないことも考慮にいれ、指導計画を随時練り直していく。 ③就職を希望する生徒たちに情報を提供し、適切な指導ができるよう努める。 ④事前、事後指導の充実に努める。特に事後指導に関しては教科との連携を取りつつ、外部試験の結果がその後の教科指導に反映されるように努めていく。 ⑤本年度から大学等模擬講義を1、2年対象の進路講演会の中に位置付けて実施する。 ⑥HR担任との連携・情報交換を通して生徒個人の特徴、資質などを的確につかみながら、生徒が主体となって進路選択を行うよう留意する。	①進路適性検査などを全クラスで実施し、適切な文理選択や科目選択ができるような取り組みを行った。 ②幼稚園体験に3年生の3人が参加した。コロナの影響で今年予定されていた他のインターンシップは全て中止となった。職業選択に関する情報等を総合的な探究（学習）の時間などを通して流した。 ③過年度の就職試験受験報告書などの情報を生徒に提供し、適性検査や面接等の書籍の貸し出しを行った。また面接指導をして受験に備えさせた。 ④模試の分析報告書を各教科に渡し、教科会などで検討した。 ⑤模擬講義の事前学習として、26講座に分かれそれぞれに関する研究や授業の内容などについて調べ学習を行い、発表した。
保健厚生部	校内における新型コロナウイルス対策と心身の健康課題に適切に対応する能力の向上	①毎朝の検温と手洗いを含めた健康観察の充実 ②教育相談・特別支援教育体制の充実 ③消毒を含めた環境美化活動の充実	①毎日のST時において担任・副担任による健康観察を徹底し、発熱していないか、体調不良の生徒はいないかを確認し、養護教諭との連携を強化する。 ②スクールカウンセラーによる研修等を実施し、教育相談、特別支援に対する意識啓発と資質向上に努める（目標年間2回実施）。また、当該生徒に関わる学年相談担当および担任との連携を密にし、情報共有に努める。 ③健康で安全な学校生活を送れるようにするため、環境美化に対する意識を向上させる。具体的にはゴミ箱を撤去したことによりゴミの放置がないように生徒の意識向上に努めたり、ボランティア清掃活動を実践（目標年間2回実施）したりする。	①毎朝のST時に担任、副担任による健康観察を実施し、発熱や体調不良等の確認を徹底し、養護教諭との連携を強化することができた。 ②スクールカウンセラーによるカウンセリング後の意見交換を充実させ、当該生徒に関わる学年相談担当および担任との連携を密にし、情報共有に努めることができた。希望する生徒が多く、スケジュールの調整が大変であった。 ③1年生で除草作業を実施したことで、美化意識を高めることができた。コロナで実施できなかった学年があったが、部活動部員や美化委員、交通委員によるボランティア清掃活動を12月に実施することができた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価結果と課題
図書情報部	積極的な情報発信とICTの活用	①図書委員を中心に新着図書の情報を紹介しながら、行事や時期に応じた図書の話題を提供し図書館利用の活性化に努める。 ②ホームページ等を充実させ、地域への情報発信を活発にする。 ③情報機器の使用方法を職員に周知するとともに、アクティブラーニンググループを整備するなどICTの校内での活用を活発にする。	①図書委員会を中心に、主体的に活動できるような環境づくりを心がける。 ②分掌や学年にホームページ担当者を設け情報収集を迅速に行い、写真の掲載を増やしてホームページや学校新聞をより魅力的なものにする。 ③情報機器使用法のわかりやすいプリントを、適宜作成配布したり、ICTを活用した学習支援ができるよう周知や研修を行う。	①図書委員を中心に図書館便りの発行や読書会を実施し、コロナ禍であるが出来るだけ図書館活動を実施した。 ②コロナの影響により部活動の大会が中止になるなどがあったが、トピックスの更新は頻繁に行うことができ、地域への情報発信の役割を果たすことができた。 ③アクティブラーニンググループが完成し11月から授業で使用している。ICT機器については次年度に向けて充実させ、さらに活用できるようにしたい。
生徒会部	豊かな心の育成につながる学校行事の企画、運営	①学校行事の安全かつスムーズな運営 ②生徒主体の議会運営の充実 ①、②を通して7割以上の生徒が楽しめる学校行事を実現する。 ③学校設備の点検、補修の徹底	①・コロナ対策を中心に学校祭について、実施時期、内容を検討する。 ・L Tを活用して学年レクリエーションを充実させる。 ②生徒が行事に主体的に取り組めるよう、クラスの意向を反映する議会運営を心掛けさせる。 ③老朽化の進んでいる設備や部室の点検、整備を継続して行う。	①・コロナ対策のため基本案の提示が遅れたが、クラス企画の内容や巡回方法の工夫により、3密を回避して巡回させることができた。結果、楽しい文化祭であったという評価が多かった。(生徒アンケートでは7割の評価)また、文化祭巡回をクラス単位で実施したことで、友人との交流も深まり、心の成長につながる一助となった。 ・大府特別支援学校との交流は、学年対抗のズーム交流という形ではあったが、例年通り実施できた。双方の生徒の笑顔が印象的であった。  ②③は例年通り。概ね良好。
生活文化科	新たな時代に対応する職業人として必要な資質・能力の育成	①授業改善への取り組みと、指導と評価の一体化に努める。(生徒の授業に対する満足度は7割以上を目指す。) ②本校生徒の実態に合った新教育課程を作成する。 ③あいちものづくり文化継承事業に取り組み、実践的な技術・技能を習得させる。	①生活産業の各分野について、体系的・系統的に理解させ、関連する知識や技術を身につけるとともに、体験的、実践的な学習活動を通して、新しい時代に対応可能な合理的、創造的に解決する力を養う授業を実施する。更に評価方法を検討し、指導と評価の一体化に努める。 ②本校の目指す生徒像を踏まえ、10年先を見据えた新教育課程を完成する。 ③職業人に求められる倫理観を踏まえた豊かな人間性を育み、よりよい社会や生活の質の向上を目指して、主体的・協働的に取り組む態度を育成する。更に、産業界等と連携した実践的な技術・技能を習得する事業を通して、スペシャリストの育成に努める。	①授業改善のひとつとして、様々な授業でICTを活用した。実践的な活動や多様な資料を参考にした比較分析等を実施できた。授業について生徒にアンケートを実施したところ、9割以上の生徒が技術向上、内容理解、達成感を感じていると回答し満足感を覚えていると思われる。多様な指導方法に対応した評価の検討を常に行ない、生徒が自らの成長を実感できる授業を実施していきたい。 ②生徒の実態と目指す生徒像を明確にし、新教育課程について協議し、編成した。 ③有松絞工房と連携したマスク作りとその寄付を始め、絞染体験講座、和菓子講座、座布団講座を実施した。感染症対策を万全に講じ、プロに直接伝統技能を教わる機会を確保できた。今年度はインターンシップの実施ができなかったが、職業観に刺激を与える授業内容の工夫を行なった。
第一学年	規律・触発・学力～人間力の育成を目指して～	①相談・面談・声掛けを充実させ、個に応じた指導を心がける。 ②挨拶・時間の遵守・礼儀の大切さを伝えることで規律ある態度を育てる。 ③学習分析・部活動結果・学校行事の意義を共有する。 ④保護者との連絡を密にとり、生徒を学校と保護者で支える。情報提供のために、メール配信システムの登録90%以上を目指す。 ⑤高校生活における満足度を調査し、満足であると回答する生徒が70%以上を目指す。	①臨時休業に伴う生徒の精神状態を常に留意する。卒業後の進路は通過点であることを常に意識させながら、高校で生きる力を育成していくように促す。 ②生徒自ら挨拶ができるように声掛けをする。始業時間の5分前着席を基盤とし、常に5分前行動するように声掛けをする。提出物において必ず期限を守るように指導する。T P Oを意識した礼儀正しい振る舞いができるようにする。 ③学習・部活動・学校行事において、一人ひとりが切磋琢磨して成長し、最後まで粘り強くやり遂げる集団作りを意識する。さらに、学習分析などを活用して個別に声掛けをする。授業に集中できるようにクラスの掲示物などを工夫していく。 ④保護者との連携を図るために、教員間の早めの報告・連絡・相談を意識する。	①定期的に生徒面談を行い、生徒の精神状態を把握し、対応に努めている。また、類型登録においては、将来の目標を軸に先を見越して選択させることができた。次年度に向けて、第2学年は学校の中心を担うことを意識させていきたい。 ②朝礼や行事において、5分前行動ができています。提出物においては、大半は期限を守れている。今後も継続的に指導していきたい。 ③学年集会・遠足において、考えて行動すること、集団行動の大切さを伝えた。また、考査週間のクラス平均学習時間を共有したり、クラスの掲示板では、クラス目標を掲げたりして、学習への意識を高めた。 ④生徒個々の情報を学年全体で共有し、対応していくように努めている。今後も、密に連携しながら対応していきたい。メール配信システムの登録は100%を達成できた。 ⑤年度末に高校生活における満足度の調査を行う。
第二学年	①具体的な進路目標の設定 ②学力の向上 ③生徒・保護者との信頼関係の構築	①進路意識高揚のためにL Tや総合的な探究の時間を活用して、調べ学習や外部講師による講演会の開催など、科・類型に合わせた働きかけをし、具体的な進路目標設定に繋げる。 ②臨時休業中に家庭学習ができるよう、各教科から具体的な指示を示す。学校再開後は予習・復習を含めて授業を大切にさせ、その中でわかる喜びや自己の伸びを実感できる生徒が全体の80%以上になるよう努める。 ③1年次に引き続き、日頃のコミュニケーションによる生徒理解に努める。また、保護者との連絡を密にし、こまめな情報交換と正しい情報共有を心掛ける。	①講演会や模擬講義に向けて、事前学習を様々な方法で取り組み、情報収集の機会としたい。進路に対する視野を広げ、情報を取捨選択し、具体的な目標を設定していけるよう指導していく。 ②学校再開後に授業を再構築し、授業と家庭学習の2本柱で確かな学力を身につけていけるよう指導していく。 ③生徒の心身の健康状態を踏まえ、個に合った対応を心がける。また、学校と家庭が信頼関係を深め連携することで、生徒を育てていく。	①総合的な探究の時間にテーマを職業・企業・学部という順番で定め、調べ学習や発表を行った。その後、大学等模擬講義に向け受講する講座に関する研究内容を調べ、1年生に向けて発表した。様々なことに目を向け“知る”ことによって、卒業後の進路を考えるきっかけとなった。 ②行事が削減された中でも、真面目に落ち着いて授業を受けられている。食欲に欠けるため、達成感を味わわせるなどして前向きに取り組ませたい。やはり行事、授業、部活とメリハリのある生活をさせてあげたい。そのうえで、生徒が自ら学習する姿勢を期待する。 ③個々で様々な問題が出てきているが、スクールカウンセラーの協力を得ながら学年団で個に適切に対応に努めている。一人一人と向き合い生徒と教員の関係性、保護者と教員との関係性を大切にしている。今後も続けたい。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価結果と課題
第三学年	可能性を拡げるための教科指導と生徒の適性に応じた進路指導の実現	①生徒の学力を向上させるために、各教科の教員が生徒の意欲・関心を引き出す工夫をし、授業時間内の学習効果を最大限に高められるよう努める。 ②面接を通して進路希望や適性を定期的に把握し、的確な助言ができるよう努める。また、年度末にアンケートを実施し、「自分の進路決定に満足している」と答える生徒が半数以上となることを目指す。 ③生徒が高い目標を設定して自発的に学習に取り組む姿勢を教員が適切に評価する。 ④上記の方策を実現するために、教員間で密に連携を取り、様々な情報の共有および有効活用をする。	①早朝や昼休み、業後の時間に面接時間を確保し、生徒の細やかな進路希望の変化や学習・生活習慣の様子を観察する。得られた情報は会議等で適宜共有し、多方面から生徒を支えられる枠組みを作る。 ②定期テストを軸として生徒の学習成果を把握する。また、模試の結果を最大限に活用し、生徒の進路実現に向けて適切な指導ができるよう努める。 ③総合的な学習の時間や進路L Tを利用し、生徒の能動的な学習意識の高揚を目指す。 ④進路に関する声かけを様々な立場の教員が共通認識をもって行う。さらに、土曜学習会や補習の開講を通して、授業外においても生徒が集中して学習に取り組むことができる環境を整える。	①各教科の教員が授業を通して、一人一人の生徒の基礎学力強化と知識の定着に向けて継続的に働きかけられた。 ②進路希望が細かく変化しやすい一学期に、担任・副担任との定期的な面談を通して生徒の細やかな希望を把握することができた。二学期以降も継続し、一人一人の生徒に寄り添い、進路決定に向けて支援を行った。 ③自身の進路目標に向けて弱気になっている生徒が多い現状である。目標を設定し、高い意識で受験に臨むことができるよう、継続的な支援をした。 ④会議以外の場面においても、各クラス担任・副担任が話し合い、連携を取りながら情報共有をすることができた。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組み		①いじめの早期発見や未然に防ぐために、学校生活アンケートを年3回行う。 ②いじめ不登校対策委員会を定期的に行ない、情報の共有化を図り、学校全体でいじめに対して取り組む。	①学校生活アンケートを基に生徒と面談を行ないより詳しい情報を得て、会議等で適宜共有し、問題解決に向けて学校全体で取り組めるようにしていく。 ②いじめ不登校対策委員会で得られた情報を全学年に会議等で共有し、生徒に対してきめ細かな対応を行える環境を整える。	①学校生活アンケートは定期的に行っているが、今年度は生徒の実態に合わせて時期を変えて実施した。その結果、長期休業中の生徒の不安等を早期に知ることができ、迅速に対応できた。来年度も適時実施し、生徒の実態に合わせた方法を行っていきたい。 ②いじめ不登校対策委員会は学校生活アンケート後に迅速に行えた。その結果、早期に対応することができ、スクールカウンセラー等につなげることができた事例もあるので来年度も継続していききたい。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況		①定時退校日を月1回程度設定し、在校時間が1か月あたり80時間を超えないよう業務を適正に割り振る。 ②在校時間等の状況記録の結果を活用し、学校医や養護教諭、スクールカウンセラー等と連携して、教職員のメンタルヘルスの維持向上に努める。 ③年次休暇を取得しやすいよう環境を整備する。	①在校時間等の状況記録の集計結果などを安全衛生委員会で確認し、1か月の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。 ②在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに、ストレスチェックの結果の活用や高ストレス者に対する医師の面接指導を通じて教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努める。 ③教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。	①80時間を超えるのべ職員数は、職員室施設時間の設定や年度初めの休校期間もあり減少している。安全衛生委員会でより詳細なデータを確認することで、自己の勤務管理についての意識を促していく。 ②職員室施設時間や定時退校日の設定による、時間外勤務の時間数を追うだけでなく、ストレス減少を図るため、教職員間のコミュニケーションを促し、学校医・養護教諭・S C等と連携した援助を一層図っていく必要がある。 ③コロナ禍で行事予定の変更などを余儀なくされ、教職員の計画的な年次休暇利用促進に支障が出た。今後ウィズコロナにおける、行事予定の迅速かつ柔軟な決定、確実な情報共有など環境整備に努め、職員間の働き方に格差が出ないように、各分掌・学年・教科の主任を中心に業務内容を適切に割り振る必要がある。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		①学びに向かう力の育成 ②豊かな心の育成と規範意識の更なる向上 ③防犯・防災を含めた安全・安心の確保 ④家庭や地域との協働による教育の推進 ⑤実効性のある働き方改革への取り組み	①主体的・対話的で深い学びの視点からの指導方法の工夫改善に努めるとともに、生徒一人一人の学習の成立を促すための、指導と評価の一体化に努める。更に、ICTの積極的な活用で、新しい授業の在り方を切り開く。 ②人としての在り方生き方教育を推進し、道徳教育や読書活動等の充実発展に寄与する態度を育成する。更に、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育み、人間関係構築力を育成する。 ③安全衛生委員会を効果的に活用し、安全教育を推進するとともに、効果的な防災訓練の実施に努める。 ④挨拶運動や通学路清掃ボランティア等を実施し、地域の信頼に応える学校づくりの推進に努めるとともに、学校評価と連動した学校改善を実施する。 ⑤業務内容を見直すことで協働した業務の推進を図り、現在の教育水準を維持した実効性のある働き方改革へ取り組む。	①10月下旬にアクティブラーニンググループが完成し、今年度中に生徒一人一台タブレット端末が配備される。また12月には県内各校から参観者を迎えた公開授業を実施し授業研究がなされ、ICTを活用したこれからの学びの環境が着々と整備されつつある。 ②総合的な探究の時間の在り方を検討し、ディベートやSDG s等を取り入れ、知識偏重にとどまらない学びの場を構築しつつある。 ③月に1回安全衛生委員会を実施し、学校医や薬剤師から感染予防対策などのポイントを伺い、生徒に伝え還元している。また、大規模災害に備えた防災マニュアルを整備した。 ④コロナ禍で地域の行事が中止になるなか、生徒会執行部を中心とした挨拶運動や、部活動生徒による通学路清掃ボランティアを実施した。 ⑤働き方改革を教職員評価シートの優先項目に掲げ、今年度はコロナ禍で実施を見送った行事や事業について、再検討や見直しを図り、実効性の高い学校組織の構築に取り組んでいる。